

十一、河合康左右

——隨筆——

大阪ギロチン社の一員、中濱、小西、古田其他の諸君と共に強盜殺人罪にこぼれ、無期となり、何處の獄へ送られたか不明である。

英、佛兩語に通じ、勇敢な運動家であると共に熱心な勉強家でもあつた。

◇ 知識から力へ

刹那の至境——歡喜の極致

元氣が良いのが何よりだ。虐げられつゝ、在る者の過去は成程火薬のやうなものだ。感情がマツチで刹那は磨擦か？ 至極名言だ。さうすると結果は我にとりては虚無、人にとつては恐怖となる。こうした必然的行動に出なくては居られないのが熱情の男なんだ。我にとつての刹那の歡喜は、人にとつて永劫の悲哀だとか。

僕もこれで半年以上牢屋に居る。意識は生を厭い無意識は生を愛して、何のことだか分らぬが

ゴロ／＼して居る。魂までも打ち込んだ本當の自由歡喜の境地を一度でも味へたなら、こんな下らない生命なんか要らない筈だが。

思ひ切れないところに無限の哀愁がある。怨恨がある。こう云ふわけで別に立派なことをしたのでも何でもない。しかし下らない自称主義者や自稱テロリストからは非難さるべき弱味はない積りだ。

『人間の力』といふものはこんなものだ。買ひかぶるから間違ひが起る。だが自重したらそれこそ何にもなりやしない。

僕は主義者の内情はよく知らないだらうが、先づ見たところこれも馬鹿切つて話しにもならぬと考へたことがあつた。知識階級は文筆で飯を食ふ奴ばかり、雑誌運動と講演位が關の山だ。雑誌を出すには改つて保證金を出して検閲を受ける。何の事だ。僕はその効果を認めはするが、馬鹿々々しいのだ。

「お前さんをブンナグルが宜いか」と人に前もつて聞く馬鹿もなからうぢやないか。又「俺を殺しても宜い」なんて氣の良い奴も世にはなからう。飛んでもない馬鹿な話しだ。僕は別にそんな馬鹿な事は止せと云ふのではない。僕の氣持ちとしてどうしてもいやなのだ。ところが世の中にはいろ／＼な馬鹿がある。何でも名士になるには雑誌で大々的に運動をやるに限ると一圖に思

ひつめてゝも居るのか、雑誌運動の眞義も何にも分らずに只々「雑誌々々」と何を血迷つたか、雑誌の催眠術にても罹つたのか、金でもこしらへる道具にするのか、夢中にのぼせて雑誌の夢を見る男もあるさうだ。今の世で雑誌運動をする者では眞義に觸れて、いかさまそれらしくやつて居るのは「労働運動」だけだ。福田なんかのやうなのは雑誌運動者でなくて雑誌商賣人だ。どう手を打たうにも、そうより手の打ちようがないぢやないか。要するに運動と云ふものの本當の概念が分つてゐない人が自ら運動家と稱するからいけない。

僕はこんなことを考へて嘆息するよ。

暫く大阪にゐた中でも、カフエーなんかでよく大阪の主義者ゴロにも會つたが、一見嫌惡の情がムラ／＼と起る。乞食の様に端金を拜み倒して有難く頂戴して飯を食ふ。「俺は百圓だつた」、「俺は五十圓だつた」なんかと聞いても癪にさはる會話許りなんだ。そんな奴等に十圓でも二十圓でも強奪した方がいさぎよいと云ふ氣概をさせてやりたいと考へる位だ。

僕も金といはやつた。しかし全然違つた心持ちでやつた積りだ。こんごの事件だつて、一寸見ると金の爲めだと云ふ人が多い。併し眞意は金の爲めぢやないんだ。金のためだつたら外にいくらでも手段のあることは知つてゐる。そして其の當時だつて決して金に窮してはゐなかつた。何の爲めにやつたか？ それは分つてくれよう。

金なんか第一の目的ぢやない。目的は事件そのものなんだ。一口に云へば、理論の實地試験位のものだつた。

其の意味で僕は参加してゐる。僕のみでなく皆そうだが、併し結果が殺人になつた。遂に刑事上××××罪を構成したと云ふのだ。僕等に縁のない法律が右の様な判断を與へた。一變して大事件になつてしまつた。大體こう云ふわけなんだ藝面白くもない。

大阪の自稱主義者共の飯料を稼ぐ金坑は僕等が荒し廻つたおかげでもうすっかり駄目になつてしまつたとか？ 金貰共から怒まれるかも知れないが却つてい、事だと思ふ。今まで猫も杓子も棚ボタ式に金が貰へたが、それが出来なくなつたさうだ。馬鹿な奴等だ。世の中にいくらでも金が遊んでゐるのが分らないらしい。何もそんな棚ボタ式の金坑許りで生活しようと思へなくともよさそうなものだ。あらゆる方面に泣寝入り主義者がうようよしてゐる。

こう云ふ馬鹿があつたよ。「監獄に居れば生活の安定が得られて結句娑婆よりは氣樂だ」と。大阪もの、口癖だ。よくこんな奴が主義者だと稱して生きてゐられるものだ。社會運動が分つてゐるのか。

また誰かこんなことを云ふた。「娑婆は不景氣だし、鑛脈はすっかり駄目だから監獄にゐる方がいいですよ」と。まさか僕を侮蔑する積りでもあるまいから、御本人の冗談と聞いておくが、

冗談にしては餘りに墮落が甚だしい。意氣地のない唯物主義者ならいざ知らず、假にも精神主義者ぢやないか。右を見ても左を見てもこんな手合許りがゴロゴロして居るかと思ふと餘りに情なくなる。

僕も自分の事を色々證じつめて考へて見る。もう一度ふり出しから「タ、キナホシ」て出直そう。スツカリ新しい河合といふ男が監獄で出来上るだらう。本當に自分の進むべき方向——僕として進まなければならない方向——に突進する爲めに、再生の魂を湧かせてくれようと思つて考へてゐるのだ。

總ての刹那を充實した自己の生命で満たして歩みたいといふのが僕の願望だ。

何といつたつて刹那が空虚になり勝ちだ。

此頃は丸て死に物狂ひに考へてゐる。誇張ぢやない。魂と魂とが「カチ合つた」やうな考へ方をやつてゐるのだ。そして過去を一大パノラマの様に展開してゐるのはやり直しの爲めの過去展開である。出獄の時は押しも押されもしない魂の充實者、刹那の擴充者になつて居るだらう。でなければ、こんな生命なんか大自然へお返しする。

僕には只一つの希望がある。自分の全生命の全能力をありつたけ刹那に「ホオリ出し」てみたいのだ。あ、よくあれだけの力が出たと自分乍ら感嘆する位ひの全身の力を表して見たい。後

に何等の悔も残さないで、こうした刹那の絶對を味つて見たい。刹那の至境、歡喜の極致、こんなものが味つて見たい。人間としての全部を一刹那に「サラケ出ス」といふ本能力が見て死にたい。これが望みだ。別に改造や、革命を望まない。こうした經驗さへなめることが出来れば後は野となれ山となれ、さうでもいい。心だらうと身體だらうと勝手にして貰はう。

百メートルの短距離競争者は絶えず百メートルだけ走る練習をする。名選手はごことが違ふかと云へば即ち百メートルの間を走るのに自分の全力をすつかり「サラケ出ス」ことが出来るのだ。だから名選手は百メートル走るともう力が抜けたやうになつてしまふ。

これと同じく僕は刹那の充實の選手にならうと云ふんだ。理論で教へられる通りだつたらわけないやうだが刹那の充實は至難だ。

本能的直覺力と云ふものが社會的教育のお蔭で「マヒ」してしまつてゐるのが現代人だ。僕も其の一人だ。だから不愉快だ。古い話したが昔の名人だとか達人だとか定に入つた人だと云ふのはよく考へると鍛練によつて自由自在に刹那を充實させ得るに至つた選手なんだ。こんなことを考へるとそして日本の現代の思潮を眺めるとき、僕は急に名人達がなつかしくなつてしまつた。「よし俺も獄中で鍛へてやらう、監獄の仕事なんかは、ソツチのけて荒行てもやつて見ればせめて心も慰さむだらうし、刹那充實の選手にもなれよう」と考へた。窮餘の一策とはいへ、至

極の妙案だ。行動即ち思想といふ多年の宿望はこうして完全に遂げられやう。やゝともすれば文筆へと逃げ場を設けて心を兩端によせようとした過去は綺麗に葬れた。筆の男、理論の男から、力の男へ信念の男へ進化する大機會を監獄が與へて呉れるのではないかとさへ考へられる。考へ方によれば物はどうにでもなるものだ。もう少し學力が欲しい、もう少し心力が欲しい、と此の二つの欲望で過去を歩んで来たが、今となつては前の欲望は絶望になつた。後者のみに突進するには又とない試験場が與へられた。運命の手はこうして僕を導いて行く。

事件はまだ終結しない。選舉違反の大馬鹿野郎共がどし／＼やつて來出したので後まはしにされた形だ。その中に豫審も終結するだらう。成るまゝに打つちやつて居る、この五體を何とか處分して貰ふんだ。だが意志に反してまでペコペコと働いたりしないで地獄地獄はあつたらう。

肺患の方が良くなつたとは何よりの話だ。特に自愛を祈る。病狀に付いての善報を待つてゐます。

僕等の行動は總て偶然だ。けれども心理の奥を眺めるとき其の偶然は必要なのだ。總てはなる様になる、行くところまで行く。矢張り必然だね。

——三・五・一五——

一一一、朴 烈

——獄中消息——

本名朴準植、朝鮮の人、逆境に暮し、無政府主義者となり、『不逞鮮人』を出してゐて、自我人社と親交があつた。氣一本な熱のある勇敢な人であつたが、大正十二年九月金子文子君外二名と共に捕はれ、秘密結社に就いて罪せられる筈であつたのが、何のはづみか爆發物取締罪則違反となり、また轉じて大逆罪となつて死刑の首渡をうけ、死一等を減じられて無期となり千葉在監中。未決在監中、金子君と結婚の手續きをとつた。

▽強者の宣言

奴等は今死を以つて俺を脅迫してゐる。

然しながら、世に眞に恐るべきものは死ではない。それは明に死をも恐れない處の、敢爲なる個人の強い魂であることを想はねばならぬ。

然り俺はその敢爲なる魂だ。世に如何なるものが眞に怖るべきものであるか。それを俺は奴等に示してやるのだ。

◇

想ふに××は、俺のこの首をギロチンにかけることは出来るだらう。

然しながら俺の手で蒔いた種を焼きつぶすことは出来ない。××に俺の與へた傷を療やすことは出来ない。俺のこの身體は、××のギロチンの露と消え失せるとも俺の蒔いた種は、あとに残りかたい地殻を破つて、芽を出し、花を持ち、そして終りには、實を結ばないではやまないであらう。俺の××に與へた傷は永遠に××の身體に残り、心臓をくさらし、遂には××を×ぼさないではやまないであらう。

俺は勝利者だ。永遠の勝利者だ。

成程俺の××は不幸にして中途に破れ、俺の腰は、今××の鎖に撃がれ、俺の首は正に××のギロチンにかられやうとしてゐる。これは事實だ。

然しながら、俺にとつてそれが何んだ。

それは只俺の勝利が、俺が俺の××を完全に實行した場合に比較して、割合に小さいと云ふことを意味してゐるにすぎないではないか。

然り。俺は不敗の戦士だ。敗れても勝つても勝利の冠は常に俺と共にあるのだ。

××の勝利も實は俺の勝利にあるのだ。世に所謂縛られて勝つた奴ではないオ方とは實に俺のことだ。

打石雨滴碎而碎

自由戦士死而殺

石川三四郎著

菊版箱入
壹千五百五十頁

定價 貳圓八拾錢
送料 貳拾七錢

改訂 西洋社會運動史

普及版

愈々本書の普及版が出来た。是れは大眾の聲である。本書の復興版の出たのは今から一年前の昨年四月で、其の時から世間多數の人々から本書の普及版が翹望された。それらの人々からは「復興版が高いといふのではない、六圓では買ひ悪いから、もう一寸一般向に買ひ得る値段に低下して欲しい。其の爲には製本や印刷紙の相雑は厭はない」とまで言つて貰つたものである。普及版は復興版の半額、三圓になつた。此の價が尙一般的に買ひ得る値段であるとは思へない。けれども唯今の處、弊閣の許される範圍での最低値段である。そして大眾の要求に幾分でも近接された價で「普及版」の出来たことを弊閣は喜びとしたい。誠に多角的な社會面に蠢動し、相交錯する諸種の社會運動の性質、由来、傾向を正しく認識する上に本書は我國に於ける唯一の啓蒙指導の良書である。

東京神田今川小路

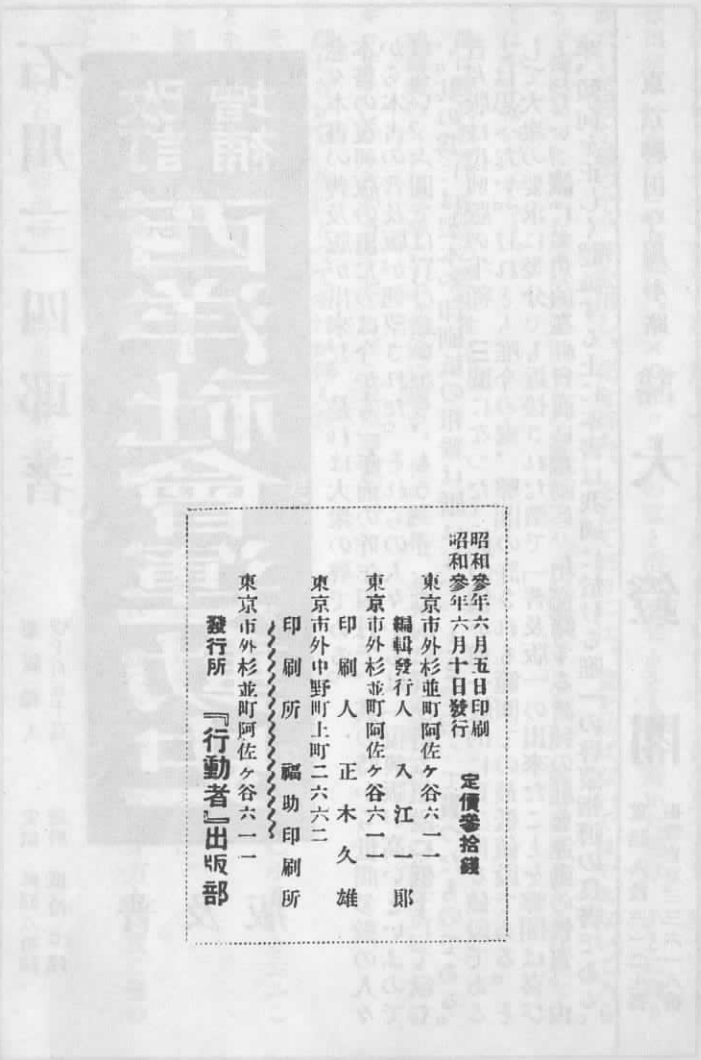
合資會社

大 鏡 閣

電話九段三一七番
振替東京三三六一八番

昭和參年六月五日印刷
 昭和參年六月十日發行
 定價 參拾錢

東京市外杉並町阿佐ヶ谷六一一
 編輯發行人 入江一郎
 東京市外杉並町阿佐ヶ谷六一一
 印刷人 正木久雄
 東京市外中野町上町二六六一
 印刷所 福助印刷所
 東京市外杉並町阿佐ヶ谷六一一
 發行所 『行動者』出版部



黒色戦線社発行パンフレット

マラテスタ著
 無政府主義組織論 一〇〇円

石川三四郎著
 ワフノの農民運動 一五〇円

ベルテロー著 山鹿奏治訳
 平民の鐘—無政府の福音 一五〇円

岩佐作太郎著
 無政府主義者はこう答える 一五〇円

石川三四郎ほか三氏著
 日本無政府主義運動史 三五〇円

アナキズム研究誌

●自由連合 三〇円
 姫路市亀山三五四 向井方
 自由連合会(振替大阪一二六四)

●麦社通信 二〇〇円
 東京都豊島区南池袋一一一五―二一
 田中ビル二〇七号室
 麦社(振替東京一四四七二二)

●タナトス 二〇〇円
 東京都杉並区松庵三―三三―一二
 佐藤利二方信太氣付
 タナトス社(電三三四―〇九六八)

●無政府主義運動 四五円
 川崎市塚越三の四七二 綿引方
 日本アナキストクラブ